

氏名	萩原 宏明
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4322 号
学位授与の日付	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Effect of pegylated interferon therapy on intrahepatic recurrence after curative treatment of hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma (C型肝炎ウイルス関連肝細胞癌根治治療後のペグインターフェロン療法の効果)
--------	--

論文審査委員	教授 加藤 宣之 教授 八木 孝仁 准教授 高橋 英夫
--------	-----------------------------

#### 学位論文内容の要旨

C 型肝炎関連肝細胞癌(C 型 HCC)根治後のペグインターフェロン(PEG-IFN)療法による予後改善効果について検討した。対象は当院にて根治的治療が施行された C 型 HCC 182 例。初回根治後に PEG-IFN での治療が行われた 37 例(PEG 群)と行われていない 145 例(対照群)を比較し、生存率・無再発率および予後因子・再発危険因子を検討した。また両群の選択バイアスを軽減するため傾向スコアを用いて同様の検討を行った。平均観察期間は 3.7 年で、持続的ウイルス陰性化(SVR)率は 51%であった。5 年生存率は PEG 群で有意に高かった。初回再発率は両群間に有意差を認めなかったが、第 2 回再発率は PEG 群の SVR 例で有意に低かった。傾向スコアを用いての検討でも同様の結果であった。HCC の予後因子は多変量解析にて IFN 治療有り・血清アルブミン高値であった。同様に初回再発危険因子は初発時多発腫瘍・腫瘍径 30mm 以上・血清アルブミン低値であり、第 2 回再発危険因子は IFN 治療無効・血清アルブミン低値であった。C 型 HCC 根治後の PEG-IFN 療法は予後を改善し SVR を得ることは再発抑制に寄与していた。

#### 論文審査結果の要旨

本研究では、C 型肝炎関連肝細胞癌 (C 型 HCC) 根治後のペグインターフェロン (PEG-IFN) 療法による予後改善効果について、岡山大学病院にて根治的治療が施行された C 型 HCC 182 例を用いて検討した。PEG-IFN での治療が行われた PEG 群と行われなかった対照群との比較により、5 年生存率が PEG 群で有意に高いこと、2 回目の再発率が PEG 群の SVR (持続的ウイルス陰性化) 例で有意に低いことを見出した。多変量解析により HCC の予後因子として IFN 治療有り・血清アルブミン低値が得られた。また、2 回目の再発危険因子としては、IFN 治療無効・血清アルブミン低値が得られた。

本研究は、C 型 HCC 根治後の PEG-IFN 療法による予後改善効果を明らかにした点において価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。